

令和4年(2022年)12月16日 (金曜日)

豊岡氏一歩リード

石井氏追い近藤氏は独自戦



豊岡武士氏



石井真人氏



近藤正文氏

三島市長選(18日投開票)は終盤戦に突入した。取材に出口調査などを加味すると、3期12年の実績を訴える現職豊岡武士氏(79)が一歩リードし、「世代交代」をアピールする新人の石井真人氏(43)が追う。子育て世帯支援を掲げる新人の近藤正文氏(46)は独自の戦いをしている。12、14日の期日前投票者数は前回を下回る。各陣営とも投票率は前回(49・83%)並みとみているが、アップを目指している。

豊岡氏 団体、企業支援受け遊説

石井氏 浮動票の取り込み狙う

近藤氏 不満の「代弁者」を強調

豊岡氏は、団体や企業支援を受け、馬時と違う新態勢で臨業の支援を受けて遊説「遂げる」との意思を浸透させている。街頭演説で最低30人、14日の個人は「よくて前回並み」して駆け回り、若さ、演説会は280人集めたとし、上滑りを警戒す

めたとし、上滑りを警戒す。石井氏は、前回選出要な人に使う財政の在

り方などを対話で訴え、反応も良いという。投票率の前回選比5%増を鍵とみて、浮動票の取り込みを目指す。

近藤氏は、終始一貫「パパ、ママの医療費無料」を掲げ、その必要性を呼び掛けている。市民の社会への不満を「代弁する」とい

う立場を強調する。投票率は予想以上に低く「50%を割る」と考え「60%にしたい」と、街頭演説で主張を展開している。

市選挙管理委員会によると、12、14日の期日前投票者数は3156人(男性1493人、女性1663人)で、前回に比べ63人減った。